

CIGRE最優秀論文賞受賞

電力技術研究所電力G送変電Tの植田研究副主査がCIGRE(大規模高電圧電力システムに関する国際会議)最優秀日本論文賞を受賞した。論文題目は「日本における絶縁協調の考え方と最近の動向」で、芝浦工業大学、東京電力などとの共同執筆であり、2000年CIGREパリ本大会の日本からの発表論文として採択された18件の論文の中から最優秀ということで選考された。当社からの受賞は初めてである。

絶縁協調とは雷などの過電圧に対して変電所各機器の絶縁レベルを適切に協調し保護することにより、効果的で経済的な絶縁設計を行うことである。本論

文にはこのような絶縁協調の考え方と最近の動向として77kV変電所(富之保、福野)における侵入雷サージ観測結果およびEMTP(汎用過渡現象解析プログラム)解析との比較対照結果などを示している。

発表は事前に用意された質問に回答する形式で行われ、発表後貴重な観測データであるとして高い評価を受けた。会場には世界各国の電力関連企業の展示ブースも併設され、最先端の製品や技術が展示説明され、世界の技術動向を知るうえで大変興味深いものであった。



発表の様子



企業展示ブースの様子

中国国家電力公司科学技術考察団との意見交換会実施

中国国家電力公司科学技術考察団の一行が、9月21日技術開発本部を訪問した。

一行は江国家電力公司科技環保部副主任を団長とした総勢10名で、火力と電力網を中心に当社の研究施設の見学と意見交換を行った。

一行は8時半に技術開発本部に到着し、桂川研究企画部長の挨拶と概要説明の後、リアルタイムデジタルシミュレータや燃焼試験装置、ミクロ組織観察室、燃料電池などの研究施設を見学した。各施設とも、予定時間をオーバーして熱心な質問が出され研究員が応対に努めた。超電導エリアでは磁気浮上模型に

興味を引かれた様子で、手にとって確認するなど関心を示していた。

中国語の通約は、電気利用技術研究所の祝研究主査が担当し、数人からの質問を一手に引き受けるなど大活躍した。

施設見学の後、桂川部長、城後電力技術研究所長、宮原電気利用技術研究所長を交え、技術開発に関する意見交換を行った。特に、技術開発の進め方や研究計画の立案、評価方法などについて活発な質問が交わされ、相互理解と交流を深めた。



意見交換会



超電導エリアにて